

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577400066		
法人名	社会福祉法人鹿野福祉会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	周南市大字鹿野上2755番地の1		
自己評価作成日	平成26年9月27日	評価結果市町受理日	平成27年6月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年10月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄りの育った頃にはごく当たり前であった田園に囲まれた、田舎のゆったりした生活を送っていただけの環境が整っています。  
 食事は毎食職員の手作りでできたてのおかずと、鹿野で取れたお米を楽しんでいただけます。ホームにいながらにして春は舞い散る桜を、夏には蛍の幻想的な光を、秋には黄金の稲穂の間をわたる風を、冬には親切の白さを眺めながら、自然の中での優雅な暮らしを満喫できます。  
 アクセスは徳山駅より30分とやや不便ですが認知症介護指導者を始め、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、調理師など様々な資格保有者を配置し、多角的な支援を行うと共に様々な相談を受け付けることが可能な体制を整えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で調理しておられ、調理を担当する職員は、菜園で採れた野菜や差し入れの野菜など季節の食材を使って、利用者がおいしく食事を楽しめるよう創意工夫をしておられます。利用者は買い物や準備、食事、片づけなどを職員と一緒にしており、行事食やおやつづくり、戸外でのお茶会などを楽しまれています。職員は「利用者が地域の一員として暮らす」ことを意識され、ルールフェスタや防災運動会などの地域の行事、幼稚園や保育園、小、中学校の運動会や文化祭などの他、季節ごとの花見やドライブ、雪の日の雪だるまづくりなど、利用者ができるだけ外に出かけられて、季節を楽しんだり地域との交流を楽しめるよう支援しておられます。法人として避難訓練に地区災害協力員として40人以上の地域の人の参加を得られているなど、地域との協力体制を築いておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今持っておられる力で地域住民の一員として暮らしてゆけるようお手伝いします」を理念として職員全員で理念を作成している。また、ミーティングなどの際に唱和し共有、確認を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を職員が話し合っつくり、法人の理念と併せて事業所内に掲示している。ミーティングで唱和して共有し、職員は利用者が地域の一員として暮らしていることを意識し、利用者ができるだけ外に出かけられるよう支援しているなど、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体と共催の盆踊りや様々な行事を通して地域への参加を行っている。	小中学校の運動会や地域防災運動会、障害者施設や幼稚園、保育園の交流会、幼・小・中合同文化祭に参加している。児童園の園児が来訪し歌や遊戯、ゲームなどで交流している他、中学生の職場体験や高校生の総合学習、大学生の実習などを受け入れている。散髪ボランティアや調理ボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学、高校の福祉学習を受け入れ、介護に対する知識の普及に努めている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年の外部評価、自己評価を通して事業所の取り組みの必要性を理解し、業務の改善を行っている。	自己評価は職員から聞き取り、管理者がまとめている。全職員で取り組んでいるとは言えない。前回の外部評価結果を運営推進会議で報告し、職員の資格取得支援を目標として掲げ、取り組んでいる。	・全職員での自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、取り組み状況などについては報告を行っている。会議の中での良い意見に関しては参考としてサービスの質の向上につなげている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況、活動状況、ヒヤリハットなどについて報告し、防災や感染症対策などについて話し合っている。開催に合わせて事業所だよりを発行し配布している。市の指導によりメンバーに会議録を配布するなど改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず一名の参加がある。必要に応じて窓口へ直接赴き、相談を行うなどして必要な情報や事業所としての質の向上を目指している。	市担当課とは運営推進会議の他、出向いたり電話で相談して指導や助言を得ている。隣接する法人の在宅介護支援センターと連携して協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の対象となる具体的な行為に関しては職員に周知しており、スピーチロックやドラッグロックに関してはその都度検討、必要に応じて相談や指導を行っている。	法人の拘束廃止委員会に職員1名が委員として2ヶ月に1回参加し、検討したことを復伝して共有し、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉づかいなど気になるところは管理者が指導している。玄関に施錠はせず、外に出たい人とは一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長・ホーム長が頻繁に事業所を訪問しており、職員個々の性格、援助についての把握を行うと共に、利用者へ声掛けし不満や要望を聞き取ることで虐待防止につなげている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に支援をおこなった例はないが職員は活用できるよう学習しており、知識は習得している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービス利用説明書、重要事項説明書を渡すと共にわかりやすい言葉で理解が得られるまで説明を行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず一名以上の参加がある、意見を言いやすい雰囲気の中お話を伺っている。また、介護相談員が月に一度訪問し、利用者の声を聞いており、苦情相談窓口に関しても掲示を行っている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員や介護相談員についても契約時に説明している。運営推進会議時や年1回の家族懇談会、行事参加時、電話、面会時に家族の意見や要望を聞いている。ケアについての要望にその都度応えているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議のみならず常日頃から職員の意見や提案を聞く機会を設け、実施可能なことから取り組んでいる。	月1回の職員会議や月1回のカンファレンス、朝のミーティングで職員の意見や提案を聞いている他、日頃から言いやすい雰囲気をつくっている。職員の増員について意見があり、法人で検討して対応している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回評価表をもちいて適切に評価しており、個々の努力や実績が認められた職員には、賞与への反映を持って向上心を持ち続けられるよう配慮している。また、介護福祉士などの資格を取得した物へ祝い金を出している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は本人が希望する研修には背局敵に参加させると共に研修で得た知識の共有を行っている。研修委員会を設けており、人材育成にも励んでいる。	外部研修は職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。参加後はミーティングで復命して共有している。法人研修は研修委員会で職員アンケートを取り内容を検討して年10回開催し、3ヶ月に1回ホーム長が講師となって行う内部研修と共に、全職員が参加できるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修等の実習を受け入れて、同業者との交流の機会を持つことが出来ている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みから利用に至るまでは、家族が対応されることが多いが、入所前に本人との面接を行い、可能な限り本人が安心して入所できるよう配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までの間に事前に訪問をしていただき、不安や、要望などを可能な限り丁寧に聞き、受け止めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談がほとんどであるが直ぐに入所が行えない場合には介護保険の他サービスなどを詳記したり、他の施設情報を提供している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本に調理、洗濯、ゴミ出しなどを一緒に行ったり、昼食に関しては職員も一緒に食べることで同じ時間を共有している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始時に職員と家族の役割分担を明確化し、一緒に援助してゆくことをお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブに積極的に出かけ、馴染みの人や場所との関係が薄れないよう支援している。居室に家族などの写真を置くことで記憶の消失防止に努めている。	家族や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話、葉書、手紙での交流を支援している。ドライブでの自宅訪問や散歩時の顔見知りの人との挨拶、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、結婚式への参加、家族旅行など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係には特に注意し、孤立しがちな人には寄り添い、良い関係の人たちにはテーブルで席が近くなれるようテーブルやソファの位置を調整している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても母体施設に入所された方には職員が利用者と一緒に散歩をかねて面会に行っている。家族からの相談もその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別援助のためのケアプランを作成し、毎月カンファレンスで評価・見直しを行っている。緊急の希望の変化や新たな対応が必要と考えられる方には毎朝の申し送り時にプランを検討している。	入居時のアセスメントで本人や家族から思いや意向を聞いている他、センター方式を活用して日頃の利用者の会話や行動をケース記録に記録し、利用者を担当する職員が1ヶ月ごとにまとめたものを個別援助計画表に記載して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報を参考にカンファレンスで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、出来る限りその方の生活履歴を聞き取っている。職員が共有できるように利用者台帳を作成し把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人にケース担当を定め、日々きめ細かい観察をすることで心身状態を把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に何が本人にとって良いことか、何を見直すべきかを検討し、家族に希望を聞いた上でケアを検討している。その際には介護相談員の意見も考慮して作成を行う	かかりつけ医や看護師の意見を参考にして、利用者を担当する職員が、本人や家族の思いや意向を反映させた原案をつくり、職員間で検討して介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、状態に変化があればその都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	にちじょう生活上の気づきや具体的な状況、会話、エピソードも、個別援助記録に経過表として記録している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添って近くの理髪店を利用したり、訪問理美容を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、施設の活用を行えるよう配慮している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望は大切にしている。かかりつけ医に2週間に1度受診して診察、薬の処方を受けている	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし2週間に1回訪問診療を受けている他、他科受診は家族の協力を得て支援している。看護師が服薬上の相談を受けている他、健康状況を把握し医師に情報を提供している。受診結果は病院受診表や引き継ぎノートで共有している。緊急時は協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人別事業所と兼務する看護師に日常的な健康管理に関して相談し、指示を受けて対応している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、医師や看護師を通じて早期退院に向けて情報交換している。また、頻回に職員が、面会し、状態の把握に努めるとともに、退院時には家族の希望に添った対応をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者に対して事業所として出来ること、出来ないことを職員会議やカンファレンスで話しあい、検討している。また、かかりつけ医には医療面での支援を依頼し、家族には利用開始時に説明し、同意を得ている。	契約時に家族に事業所のできることを説明している。カンファレンスで職員間で話し合い協力医療機関と相談して、移設を含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変や転倒事故に対しての対応は常に検討しており、訓練への参加を通して実践力を高めている。	事例が生じた場合はその場にいた職員が検討し、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録して共有し、介護計画に反映させて一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。法人が消防署の協力を得て救命救急法やAED使用講習を行い、職員4名が参加している。転倒防止などについて研修しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時は母体施設の協力が得られるよう手配がなされている。運営推進会議で地域の代表にお願いをすると共に、災害時協力員を法人として募集し組織化を進めている。	年2回、消防署の協力を得て、法人合同で夜間想定を含む消火、避難訓練を利用者も参加して実施している他、年2回通報、避難、停電時訓練を行っている。法人として訓練に地区災害協力員40人以上の参加を得ている他、運営推進会議で検討して、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の目線で物を考える習慣を身につけるよう指導を行っている。職員同士で注意し合い、関係作りを重視し、思いやりある言葉遣いの必要性を共有できるよう配慮している。	年1回法人の接遇研修で人格の尊重とプライバシーの確保について学び、日頃から職員間で確認し合っており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところは管理者が注意し、その人に合わせた対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難である利用者の思いを援助計画に取り入れることが出来るようセンター方式を取り入れたケアプラン作成を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事などの大まかな時間は決まっているが入浴は順番の変更などで出来るだけ希望に添えるように配慮している。食事は個々の利用者のペースで行い職員主体の援助の提供は行わないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は普段着に着替え本人の好みのものを着用していただくようにしている。理美容に関しては本人が選択した方法で行えるように理容店の付き添いや、訪問理美容の依頼などを職員が行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の希望をききと理、出来るだけ希望に添ったないようになるよう配慮して調理を行う、また、その際にも、下ごしらえや片づけなどを利用者到手伝っていただいている。職員からも給食費を徴収し利用者と同じものを食べている。	法人の畑や事業所の菜園で採れた野菜、職員の差し入れの野菜などを使って、三食とも事業所で調理している。利用者は買い物や調理の下ごしらえ、台拭き、配膳、片づけなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じ食卓を囲んで会話をしながら同じものを食べ、食事が楽しめるように支援している。ひな祭りや母の日、誕生会などの行事食、外出時の弁当、おやつづくり(パンケーキ、団子など)、戸外でのお茶会など食事が楽しみになるように工夫し、夏の水分補給にスイカを提供したり、おにぎりにするなど、その人に合わせた形状で提供する工夫をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は一目で分かるように記録し、一人一人の状況に合わせて十分に摂取できるよう援助を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状況に合わせてうがいや歯磨きをしていただいている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の支援が必要な方についてはそのパターンを把握し、可能な限りトイレ誘導にて排泄をしていただいている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼ることなく食事の内容やヨーグルト、水分摂取などにあわせて適度な運動を心がけている。症状の軽減が見られないときのみ医師との相談、指導の上で服薬調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一応月、水、金と決めて実施している。実施時間は大まかに決めてはいるが順番の調整などで可能な限り希望に添うよう配慮している。	週3日、本人が希望する時間帯にゆっくり入浴できるよう支援している。状態に合わせてシャワー浴や清拭、足浴などを行い、タイミングに配慮して無理なく入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠、休息の時間は個人の自由としている、昼夜の逆転が見られる場合には適度な時間帯での声掛けや日中の適度な活動を心がけ安眠につながるよう配慮している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を共有し職員は一人一人の処方内容について理解をするようつとめている。服薬による症状の変化については記録を行い必要な情報は医師、薬剤師と共有するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力を活用し家事や日中の活動においてお願いしている。職員は様々な場面で感謝の言葉を伝えることで利用者へ気持ちを伝えるようにしている。様々な外出を通して楽しみや気晴らしが出来るよう配慮し、援助を行っている	七夕飾りづくり、書初め、習字、ぬり絵、漢字パズル、計算、書き取り、ジグソーパズル、風船バレー、ボール投げ、テレビ視聴、シタケや畑の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、雑巾縫い、繕いもの、調理の下ごしらえ、ゴミ袋に名前を書く、ゴミだしなど、活躍できる場面をつくり、張り合いや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り一人一人の希望に合わせた外出を行えるようにしている地域の行事などにも希望者は参加できるよう積極的に情報提供を行っている	初詣、神社参り、花見(桜、バラ、紫陽花、コスモス、紅葉)、ドライブ(買い物、山野草見物、自宅訪問など)、ルーラルフェスタ、防災運動会(総合体育館)、家族懇談会(清流通り散策会)などに出かけ、散歩やゴミだし、駐車場でのお茶会、雪の日の雪だるまづくりなど、日常的に外出できるよう支援している。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用、結婚式への参加、家族旅行などの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分での管理を希望される方には家族と検討し2~3千円程度の現金を管理していただいている、自力での管理が困難な方については家族との検討を経て預かり金として職員が管理している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話を希望される方には事務所の電話を使用していただいている。また、希望者は部屋に電話の設置が可能となっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に顔写真を表札の代わりに張り、生活空間を演出している。また、季節季節の花を飾ったり、カーテンなどを使用しての光の調節に配慮している。	食堂兼居間は大きな窓から陽が差し込んで明るく、窓の外には里山や田んぼの風景が広がっている。季節の花や壁面飾りを飾り、台所に立つ職員とも気軽に会話したり、ソファでゆっくりくつろげるよう工夫している。利用者の好みに合わせて空調の風が届くよう、温度や湿度、換気に配慮して、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを用意しており、利用者が好きな場所でくつろげるようにしている。また、和室がへ移設されており、希望者があれば寝ころんだり、座って話をすることも出来る作りとなっている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとクローゼットは備え付けであるが、その他の家具については基本的になじんだ物を持ち込みしていただくようお願いしている。	好みの衣類や使い慣れた日用品を持ち込み、ぬり絵の作品やカレンダー、家族や思い出の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し、トイレも歩行器や車いすが使用できる十分なスペースが確保されている。また、リビングも歩行器を十分に使用できる広さが確保されている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームせせらぎ

作成日: 平成 27 年 6 月 3 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない	全職員が急時の応急手当法を身につけ事故発生時の初期対応を確実にこなせるようになる。	看護師よりの指導により、初歩的な応急手当法を身につけるための研修会を複数回実施し、全職員が技術を身につける場を設けるとともに、初期対応についての訓練を定期的に行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。